

令和7年度第1回史跡めぐり

「幕末と明治の博物館・酒列磯前神社・大洗磯前神社」

令和7年6月13日（金）実施

1. 「幕末と明治の博物館」



「幕末と明治の博物館」では、ビデオを観てから館内の展示物を見学しました。1929年（昭和4年）4月14日に、宮内大臣を歴任した田中光顕（みつあき）により、「常陽明治記念館」（じょうようめいじきねんかん）として開業した。同時に明治天皇の等身大銅像も制作され、銅像を納める「聖像殿」も建設された。当初は、財団法人の「常陽明治記念会」により運営されていたが1997年（平成9年）9月12日に、「常陽明治記念館」から「幕末と明治の博物館」に改称し、同年11月1日に現在のエントランスや総合展示室からなる新館を増築した。更に、2010年（平成22年）6月1日には博物館の運営が「常陽明治記念会」から大洗町の町営に移管されたため、正式名称を「大洗町幕末と明治の博物館」としました。

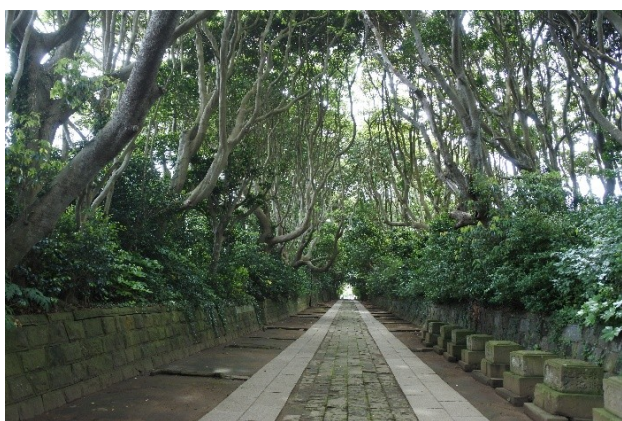
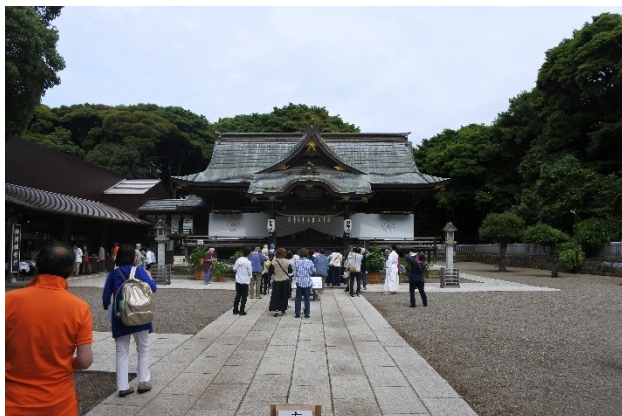
2. 「昼食」



那珂湊のおさかな市場にある「ヤマサ水産」で食事。海鮮丼を頂きました。

切り身が大きく見栄えは良かったのですが、大きすぎて食べづらく、特に蛸は噛み切れなかった。でも満腹になりました。

3. さかつらいそさき 「酒列磯前神社」



酒列磯前神社では、権禰宜の方に説明をしていただきました。参道にはタブノキやスダジイやツバキの樹叢（じゅそう）があり木のトンネルを歩くだけで身も心も浄化され穢れや邪気を取り除いて全身をお清めをしてくれ厳かな気持ちになります、またこの参道の途中には海を眺める位置に鳥居が建っていました。

御祭神は大名持命（おおなもちのみこと）・少彦名命（すくなひこなのみこと）の両名で少彦名命が酒列磯前神社の主祭神になっています。

酒列磯前神社について「神名帳考証」という書物には「少彦名命は酒を醸したまへる古実のごとくなればことさら当社に由緒ある酒列と云えるも、かの酒瓶を列ね、祀れるによる地名なるべし」とあり、当社の社名の由来は諸説ありますが酒列磯前神社の「酒」の字は少彦名命の酒神としての御神徳に沿って「酒」という字を当てたのではないかと考えられているそうです。

また、境内には宝くじの高額当選者が神社に亀の石像を奉納されています、参拝して亀の石像に触ると御利益があると評判でパワースポットになっているとのことでした。

樹叢（じゅそう）

植生ではない自生した樹木が密生している林地を指します。神社の参道などによく見られる【木のトンネル】のことです。

4. 「大洗磯前神社」



大洗磯前神社の御社殿等は戦国時代の兵乱によって焼失してしまいましたが、江戸時代になり水戸藩2代藩主徳川光圀公の命で元禄3年(1690)社殿等の造営が始まり、享保15年(1730)に完成したのが今の本殿・拝殿・随神門です。

随神門には、部品を組み立てたのではなく一本の木から彫り上げた「透かし彫り」のウサギの彫刻がありました。

拝殿前にはカエルが三匹寄り添っています。「無事にかえる」「物がかえってくる」「欲しいものがかえる」と御利益があるかも！

そして本殿は今どき珍しい茅葺の建物でした。

境内から湧く水は眼病に効くといわれ明治時代まで「目さらしの井」があり、神社前の海岸は潮湯治(病気治療のため、海水につかること)で江戸時代から御祭神の御利益をいただこうと賑わっていたようです。現在も霊験あらたかな御神水を求めて多くの方が来られているとのこと。

御祭神が降臨されたと伝わる磯を「神磯(かみいそ)」と称し、神聖な場所として禁足地(足を踏み入れてはいけない場所)としました。現在、降臨されたと伝わる海岸の岩礁の上には鳥居が建っており、神社だけではなく大洗町のシンボルとなっています。

毎年元日には、宮司以下神職は海岸に降り、大神の御降臨の地を照らしながら昇る初日の出をお参りする「初日の出奉拝式」を執り行なっています。